

# 令和3年度 富島高等学校（全日制）学校評価

スローガン「新時代に向けて必要となる資質・能力に富んだ人材の育成！」 ～ 地域社会と連携し、未来の創り手を育成するために必要な学校教育の創造 ～		<b>校訓</b> 自立 己の個性を伸ばす自立の心を育て、 友愛 信頼と協調により友愛を深め、 創造 心豊かな生活を目指して創造力を伸ばし、 知・徳・体の調和のとれた人材を育成する。	<b>重点目標</b> 志を持つ生徒育成のために (1) 「頭」を鍛え、伸ばす(個に応じた学力向上と進路実現) (2) 「心」を鍛え、育てる(心の教育の推進と充実) (3) 「体」を鍛え、伸ばす(体の育成と食育・健康教育の推	<b>具体的取組</b> (1) 主体性、特別支援教育の視点、基礎基本 (2) 社会生活スキル、集団活動、健康教育 (3) ICT教育推進と環境整備、教室環境整備	<b>【学校関係者評価のポイント】</b> ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等をもとにした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。
---	--	---	--	--	---

重点目標	評価項目	具体的方策 又は具体的指標	自己 評価	成果及び改善策	学校 関係者 評価	評価・具体的意見
(1) 「頭」を鍛え、伸ばす(個に応じた学力の向上と進路の実現)	①学習環境の整備と授業環境の支援を図る	○学ぶ意欲や授業態度を育成する ○手帳の活用 ○生徒の能力を伸ばす指導と学習の遅れを考慮した指導の推進を図る	B	○本年度も、新型コロナウイルス感染拡大で時差登校等の期間があったが、昨年度に比べて、生徒の学習活動に大きな影響を与えることは少なくなった。 ○授業での確認テストを実施して力を伸ばしたり、定期テスト前に学習に遅れを感じる生徒に個別学習指導を行うなど、充実した学習環境を整えている。今後も学習の在り方の工夫を行っていききたい。 ○授業前の予鈴は、授業に臨む姿勢を作る効果があるので今後も継続したい。生徒が授業に遅れることがなくなり、落ち着いた雰囲気です授業をスタートできている。 ○机椅子の交換など、環境整備部、事務部と連携を取って整えるなど、教育環境の整備を行うことができた。 ○生徒に自己管理や能率アップを目的に手帳を持たせている。集会時のメモや時間割管理を行っている。	B	○落ち着いた雰囲気です授業をスタートできていることは、高く評価する。 ○手帳の活用は、社会人になっても必要である。メモを取る習慣は、今後に繋がられ、良い成果を上げられると思う。 ○本年度は、コロナ禍であり、授業参観の機会がなく、残念であった。
	②授業力の向上を図る	○校内研修・校外研修へ積極的に参加し、授業力の向上を図る	B	○初任者研修や外部講師の授業、県主催の指導力向上研修へ積極的に参加し、授業力の向上を図っている。また、情報機器（ICT）を活用した授業が行われ、自己研鑽に努めている雰囲気が見られる。 ○来年度から新学習指導要領がスタートするため、今後更に研修を積んでいく必要がある。	B	○ICTについては、一人一台の端末整備はできているのか。今後の効果に期待したい。 (回答) 来年度新入生より、一人一台端末を整備する。
	③専門教育の充実	○専門教育を充実させ、ビジネス教育や家庭教育の推進を図る ○ICTを活用した学習の充実を図る ○産学官連携・高大連携による専門的知識・技術の向上を図る	B	○課題研究において、地域活性化を目的としてクラウドファンディングやひょう富クーポンの配付など、地域社会と連携を図りながら取り組む学習を推進することができた。 ○ICT等の研修や、外部講師による研究授業を重ね、授業に活用することで生徒に還元できている。 ○「ひなたイノベーションセンター会議」に参加し、日向地区の企業が抱える課題を学生や行政、企業がアイデアを出し合い、プレゼンテーションを行っている。 ○1年生の「生活産業基礎」の授業において、地域で活躍されている方や学科の卒業生の話聞く機会を設けたことで、専門分野に関する職業意識が高められた。 ○2・3年生では、コースごとに専門教科の深化を図り、行事などで能力を十分に発揮することができた。 ○iPadやプロジェクターの活用により授業の幅が広がった。 ○コースごとの校外研修を実施。大学や専門学校との連携を図った。	B	○企業や大学、専門学校とより連携し、生徒の学校での授業と社会や進学先との関連を意識できる機会を設けていただきたい。 ○県内でも「地域産業のデジタル化を担う人材の養成」がテーマで、今後6年間かけて高校段階から専門学校進学後を見通したカリキュラムを作り、生徒の職業選択を支援するとともにIT人材の県内定着に繋げていくとある。目的が定まらないまま入学して、学習意欲が維持できないケースがあると聞く。大学と専門学校との連携はできているので、早く意識を高めて欲しい。
	④資格取得の推進	○資格取得を推進し、検定学習を通して、チャレンジ精神、問題解決力、学びに向かう力を醸成する ○生徒の理解度に対応した指導体制の確立を図る	C	○資格の重要性とPDCAサイクルに基づいた指導を行うことができ、進路意識を持って高度資格に挑戦する生徒がいた。(商業科) ○ティームティーチングで細かな指導が実現できた。(商業科) ○家庭科技術検定取得への意識が高く、1年生は前期で4級取得、2・3年生は1・2級の取得を目指してよく取り組み、高い合格率を上げた。不合格の生徒に対しては、放課後等を利用してサポートを行った。(生活文化科)	B	○生活文化科の成果は、高く評価したい。テレビでもドレスファッションショーを拝見したが、良かった。生徒が楽しんで、意識を高く持って取り組んでいる姿が窺えた。
	⑤キャリア教育の推進	○各教科の授業のみならず、全教育活動を通じたキャリア教育を推進し、生徒の学ぶ意欲の喚起と学力の向上につなげる	B	○今年度もコロナの関係で制限や形態の工夫が必要になったが、進路意識を高めるために、1,2年生のうちより、進路調べ学習やキャリア教育の日を実施できた。そのため、ある程度は進路意識を高めることができたと感じる。ただし、意識を喚起した延長線上にある、学力向上について、一部の生徒にはさらなる努力が必要な面が否めない。	B	○キャリア教育は、将来の自分が何をしたいのか?のきっかけになり、目標となり、進路に繋がると思う。全生徒の意識が高まると良い。
	⑥継続して就業できる社会人の育成	○校内外のガイダンスやインターンシップやボランティア活動の充実を図り、継続して就業する心構えを持たせる	C	○3年生の総合的な探求の時間では、就労関係についての時間を設けて「働くこと」についての意識を高めさせた。今年度も2年生全員にインターンシップを課し、就業についての心構えをある程度もたせることが期待できる予定であったが、コロナの関係で、やむをえず中止とした。次年度は、コロナ前と同様に3日又は4日間のインターンシップを実施する予定である。	C	○インターンシップに代わる取組は何かされるのか。 (回答) 3月にキャリア教育の日を設け、1・2年生対象に進路学習に取り組む計画がある。
	⑦ICT教育の推進	○GIGAスクール構想に対応するため、ICT活用を推進し、オンライン教育と対面指導とのハイブリッドによる新しい学びを推進する	B	○今年度は、オンラインの環境を活かし、生徒が自宅で取り組める課題や指示を出すなどの取り組みをしている職員が昨年度よりも多く見られた。今後も生徒と職員の双方向の情報提供ができる環境を支援していきたい。また、校内業務に関して、校内オンラインシステムにより、ペーパーレス、業務削減、ができています。 ○タブレット等機器の導入が図られ、オンライン教育の充実に繋がった。一部行事をオンラインで配信を行う等、コロナ禍における新しい学びの推進が図れた。 ○次年度は、1人1台の学習用端末の整備を行う必要があるため、さらなる各家庭環境におけるきめ細やかな配慮が必要になる。	B	○「授業力の向上を図る」で述べたが、一人一台の端末整備はこれから聞いた。全生徒が、オンラインで自宅で取り組める環境にあるのか。 (回答) 全家庭が取り組める環境ではないと思う。どのように対応するか検討中である。

重点目標	評価項目	具体的方策 又は具体的指標	自己 評価	成果及び改善策	学校 関係者 評価	評価・具体的意見
(2) 「心」を鍛え、育てる(心の教育の推進と充実)	①基本的な生活習慣の確立	○新しい生活様式を考慮した基本的な生活習慣の確立を図り、自立心・忍耐力の育成に努める ○学年集会等で、挨拶、礼儀、マナーの徹底、大切さを伝える機会を多く持つ ○各種専門委員会の活用の推進を図る	B	○コロナウイルス感染予防の観点から、様々な場面において、指導を徹底してきた。昼食時の黙食や生徒が一同に集まったときのマナーなど、生徒自身の自覚を深めるまでには至らなかったことは課題である。 ○学校全体や生徒の様子を見極めながら、機会を見て集会等を開き、学校生活の大切さを訴えた。常時指導が理想であり、全職員の共通理解を図りたい。 ○各種委員会の自主的な活動が十分ではない。生徒会総務と連携して、様々な行事や活動を生徒主体で運営できるように促していきたい。	B	○今後も厳しい状況にあると思う。一人一人が自覚と危機感を持って予防に努めて欲しい。
	②持続可能な社会の形成に参画できる教育の推進	○変化を前向きに捉え、人間らしく豊かに生活する社会を形成しようとする人材を育成する ○学校行事やボランティア活動等を積極的に推進し、地域の活性化に貢献する	B	○校則の見直しやあいまいになっている学校内外のルールやマナーについて、職員、生徒、保護者、地域の方々とはじっくり話し合う必要性が生じている。同時に、地域から信頼される富高生であるために、礼儀やマナー、感情に左右されず我慢することの大切さも指導したい。 ○コロナが落ち着いてくるに従って、ボランティアの依頼も多くなってきた。多くの生徒がボランティアに興味を持っており、国文祭のサポートなど積極的に活動した。 ○各コースでの学習の中に、SDGSの視点を取り入れた。フードコースでは、フードバンクの協力のもと食品ロス減の活動に、保育コースや被服コースでは、地域行事に積極的に参加し、大いに場を盛り上げてくれた。また、家庭クラブボランティアにおいては、社会福祉協議会と連携し、地域貢献を目指す活動を始めた。 ○コロナ禍において可能な限り環境を整えるため、ゴミの分別や花壇の整備、行事の際の清掃活動など、人間性を豊かにする試みを昨年度より数多く実践することができた。 ○個人の意識をさらに高めることで、学校全体の環境への意識を高くできるよう集会・委員会活動を通じた啓発活動を充実させたい。 ○3年生には、総合的な探求の時間で高校卒業後の人生について考える講座を実施。2年生には、ライフプランナーに講話を実施し、生涯獲得賃金などの話から、人生について考えてもらう時間を設定した。 ○今年度もコロナの関係で、地域のボランティアなどの中止が相次ぎ、1、2年生については、希望してもほとんど参加できない状況であった。3年生については、校内の清掃ボランティアを2回実施できた。	B	○NIE活動、新聞各紙を自由に閲覧できるNIEコーナーはあるか。 新聞を読むことを通じて、自分で考える力、自分の意思や考えを表現する力を身につけてもらうとともに、視野を広げ社会への関心を高めてもらいたい。 (回答) 図書室で新聞を閲覧することができる。また、国語科で社説を読ませ感想を書かせるなど、各教科で新聞を活用した授業も行われている。 ○宮崎市のJR宮崎駅前商店街で、地域活性プロジェクトとして、日向市をPRするパンフレット600部配布する新聞記事を見た。地域貢献ができ、とても素晴らしい活動だと思った。
	③命を大切にす る教育の推進	○あらゆる場面・機会をとらえて、安全指導等を実施し、自他の命を大切にす る教育を推進する ○外部の団体や個人等に依頼し、命の大切さを再認識させる機会を作る	B	○学校内外における安全指導について、放送や個別の集会あるいは文書等を活用して指導してきた。今のところ大きな事故もない。自転車の施錠率は指導を徹底した結果、百パーセントに近いところまでできている。今後も生徒の危機管理意識を高めていきたい。 ○1学期に日向警察署に依頼して薬物乱用防止教室や情報モラル教室を実施した。命の大切さについて、1回のみならず、機会を見て継続して再認識させる機会を作りたい。 ○「宮崎県いのちの教育週間」における実践活動 実施日 7月13日(火)と7月14日(水) 朝の読書の時間を活用 ○「東日本大震災と人権(人権教育啓発センター提供資料)」・「動物虐待は犯罪である」の資料を読んで、いのちの大切さを考えさせた。	B	○若年層の自殺率が増加している。学校の内外で孤立していないか、悩みを抱えていないかなど、早期に気づき、支援できるよう、より一層の取組をお願いしたい。 ○指導が適切にできており、大きな事故もなく良かったと思う。
	④安全管理の 徹底	○危機管理、防災対策に組織的に取り組み、学校の安全管理の徹底を図るとともに、生徒の危機回避能力を育成する	A	○避難訓練(地震・津波)を学級や移動教室の場所から行い、生徒・職員ともに初動をどうすれば良いか考えるきっかけになった。放送が使えない場合を想定し、トランシーバーを活用して避難後の人数掌握を行った。備蓄品については、物品や個数を確認し整理することができている。 ○防災対策を意識した教室レイアウトを年度当初から各クラス取り組んでいる。今後も緊急時に避難できる教室の環境整備を推進したい。 ○津波・高潮災害における日向市内の避難場所を、資料を使って全校生徒が確認した。また、登下校中や休日の部活動中における避難場所や施設についても、確認することができたので、毎年継続して実施したい。資料については、家庭に持ち帰り、保護者にも周知および活用を促した。 ○避難訓練を通じ職員や生徒が危機管理・防災対策について考えるきっかけになった。また、備蓄品についても継続して整えていきたい。 ○日向市と災害時における避難所等施設としての使用に関する協定を結び、生徒のみならず近隣住民への協力を図ることができた。	A	○BCPの策定を訓練の実施により、災害時に迅速に対応、復旧ができるように取組をお願いしたい。 ○地震・津波、防災対策の意識が高く安心である。
	⑤スクールリーダーの育成	○学校行事やホームルーム活動等を通してスクールリーダーの育成に努める ○体育大会や文化祭等の学校行事が生徒主体で動かせるように、生徒の組織を整えて動かす	B	○学科の連携やクラスリーダー、部活動のリーダー育成のために、定期的に指導をする機会が必要である。3年生のリーダーをメンターとして、グループで学校活性化のために活動できる方策を考えたい。 ○生徒の組織を作り、数回に渡り行事を動かすための話し合い等を行った。実際行事が近づいてくると、職員が動いてしまうことが多くなり、十分に目標を達成することができなかつたことは反省点である。	B	○コロナ禍の中、体育大会や文化祭を見ることができず残念であった。生徒主体で活動ができているのが、富島高校の伝統と思っているのが、生徒が消極的になっているのかなと思う。
	⑥特別支援教育体制の充実	○教育相談体制を充実させるとともに、関係機関と連携して特別支援教育体制の充実を図る	B	○悩みを抱えながら学校生活を送っている生徒や人間関係につまずき学校に登校できない生徒の問題解決に向けて、生徒と保護者との面談を実施した。 ○教育相談委員会(計6回)、いじめ・不登校対策委員会(計7回)を実施した。 ○日向ひまわり支援学校、相談サポートセンターしらはま、病院と連携して生徒・保護者の支援を行った。	B	○関係機関と上手く連携が取れており、体制ができていると思う。

重点目標	評価項目	具体的方策 又は具体的指標	自己 評価	成果及び改善策	学校 関係者 評価	評価・具体的意見
	⑦豊かな心の育成	○読書や体験活動を通して豊かな心の育成に努める	B	○朝の読書について、アンケートの結果によると91%の生徒が前向きに取り組み、76%の生徒が肯定的に捉えている。また、一日の始まりが落ち着いてスタートでき、以前より本を多く読むようになった生徒が増えてきた。図書便りを発行し、本の紹介と共に豊かな心の育成につながるアプローチをいろいろと考えていく必要がある。	B	○読書には、いろんな効果とメリットがある。継続して頑張りたい。
(3)「体」を鍛え、伸ばす(体の育成と食育・健康教育の推進)	①健康教育や安全管理の充実	○生徒の個々の状況に合わせた心身の健康教育や安全管理の充実を図る ○生涯にわたる健康の保持・増進のための教育の推進を図る	B	○健康講話は、性についての話から自分の生き方・在り方について考えを深める良いきっかけとなった。生徒の実態に即した講話で、生徒の感想からも非常に参考になったことがうかがえる。また、講話後の担任によるフォローで、自分の身体・心に対する関心がより高まった。 ○保健室との連携をはじめ、日々の会話や観察により、生徒の小さな変化にも気づくことができています。	B	○自分の身体・心に対して、関心が高まったことは評価できる。
	②豊かな人間関係を育む	○部活動や学校行事等を通して自己の鍛錬と個性の伸長を図り、リーダーの育成に取り組むとともに豊かな人間関係を育む	B	○部活動の活性化は、本校の活性化に必要な要素である。体育系や文化系を問わず、部活動に熱心に取り組み、学校生活を充実させることが、心豊かな人間性の育成につながる。残念ながら部活動の加入率が徐々に下がっている。部活動間の連携を強化しながら、職員も生徒も生き生きと活動できる部活動を目指していきたい。	B	○教職員の皆さんの負担軽減も検討をお願いしたい。 ○部活動は、メンタル面を強化し、先輩・後輩で上下の関係を築き、社会人になったとき、人間関係を育み、仕事に繋げられるので、是非盛り上げていただきたい。
	③新しい生活様式の推進	○学校生活における新しい生活様式を推進し、感染症防止に努める意識や態度を育てる	B	○登校後の毎朝の検温・健康観察を実施することで、自分の体調の変化にも意識を持たせることができ、健康管理ができるように習慣化されてきている。 ○感染症の状況に応じて、常時マスク着用や手指消毒の徹底が、定着してきた。室内換気についても、実践できるようになってきている。 ○感染症予防のための物品調達の推進に努めた。生徒間でも新しい生活様式の定着が図られ感染症対策の意識の向上が確立されてきた。 ○新しい生活様式の中で学校生活を頑張っている生徒が多く、部活動等の活動を通し主体性や忍耐力を育成に繋がっている。	B	○今後も厳しい状況が続くと思う。危機感を持って感染防止に努めてもらいたい。